バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰受賞事例

東京大学バリアフリー支援室

【概要】

2001年、東京大学に世界で初めて盲ろう者が常勤大学教員に着任したことを契機に東京大学バリアフリー計画が始まり、総長室にバリアフリーワーキンググループが設置され、2002年にワーキンググループの報告書「バリアフリーの東京大学」が完成した。この報告書では、推進組織の整備や当事者参画のモニター会議の設置、障害者のための施設・設備の整備、経費の支援措置といった課題項目が掲げられており、これらの課題の解決・達成を図るため、2004年に「東京大学バリアフリー支援室」が発足した。そして、この課題解決・達成を当該バリアフリー支援室が目指すことにより、バリアフリー支援の先行事例が蓄積され、今では多くの大学において障害のある学生への支援が行われているが、その後の高等教育における機会均等とバリアフリー支援モデルが形成されることとなった。

【 功績・功労 】

東京大学が目指す構成員の多様性(ダイバーシティ)は社会にとっても重要な視点であり、多様な属性の人々が集うキャンパス空間の構築を目指すためには、人的・物的支援を含むバリアフリーは必要不可欠であり、障害のある学生・教職員を同一理念で支援していくことをバリアフリー支援室の設立当初に明確にし、大学として最先端学問の研究対象に「バリアフリー及び支援技術の開発」を打ち出し、研究成果の確認としてもバリアフリー支援が継続できるようにしている。

また、部局・本部・バリアフリー支援室の三者が互いに連携して障害のある学生・教職員の支援を行っているが、各部局が「バリアフリー支援実施担当者」を選任して人的・物的サポートを行い、本部は財政的措置を、バリアフリー支援室は支援を進めるにあたっての必要なノウハウを提供する「支援の三角形」という全学的な取り組みを先駆けて進めてきた。なお、障害のある教職員への支援を担う専門部署を持つのは、国内大学においては当該バリアフリー支援室のみである。

（後略）

「令和３年度受賞事例集／内閣府」より

© archicom Co.,Ltd.